

朝日カルチャーセンター・新宿教室 「三国志 個性豊かなヒーローたち」 講師：加藤 徹  
第三回 2016年8月29日(月) 関羽 神さまになった理由

★大辞林 第三版の解説 かんう【関羽】

① (?～219) 中国三国時代、蜀漢の武将。字(あざな)は雲長。劉備(りゆうび)を助けて功があった。後世、武神・商神として関帝廟にまつられた。  
② 歌舞伎十八番の一。藤本斗文(とぶん)作。1737年河原崎座にて二世市川団十郎が「関月仁景清(うるおいづきににんかげきよ)」の大詰めで初演。景清が中国の英雄関羽または張飛の姿で荒事を見せるもの。

★大辞林 第三版の解説 かんていびよう【関帝廟】

関羽の霊をまつる廟。武神として、また財神として広く尊信される。武廟。老爺廟。

★詠三国人物十二絶句 三国人物を詠ずる十二絶句

頼山陽、文政八年(1825)の作

関羽

北伐長驅不備呉 北伐 長驅して呉に備へず  
髯公終被阿蒙愚 髯公 終に阿蒙の愚を被る  
問君曾読春秋日 君に問ふ 曾て春秋を読むの日  
却記秦人殺役無 却た秦人の殺役を記するや無や

殺役⇨秦軍が殺山で晋軍に大敗した戦い。『春秋左氏伝』(魯僖公三十三年、前627)「大意」

立派で美しい髯でも有名な関羽は、遠征して魏と戦っているあいだ、油断して呉軍への備えをしなかった。その隙をつかれ、「呉下の阿蒙」こと呉の呂蒙に負けた。関羽よ。あなたも歴史書『春秋』を勉強したはずだ。あなたは、秦軍が敗北を喫した殺山の戦いの教訓を、忘れていたのか。

「評」頼山陽の関羽への評価は、辛口である。

「参考」篠崎小竹は、漢人は関羽のたたりを怖がるので絶対にこんな詩は口にできない、と評している。

★関羽にまつわる「歇後語」(歇后语)

1 罗贯中写《三国》—— 笔下留情 羅貫中寫《三國》—— 筆下留情

羅貫中が『三国志』を書く。筆の先に情けがこもる。(特に、同郷の英雄である関羽に対する描写は特別である)

- 2 关公的眼睛——睁不开 關公的眼睛——睜不開  
關公の目。いつも閉じて開かない。(いつも物静かで、目を細く閉じている)
- 3 关羽开凤眼——要杀人 關羽開鳳眼——要殺人  
關羽が鳳眼を開く。人を殺そうとしている。(敵を斬る瞬間だけカッと目を見開く)
- 4 关云长面前耍大刀——不自量 關雲長面前耍大刀——不自量  
關雲長の面前で大刀をもてあそぶ。身のほど知らず。
- 5 关云长流鼻血——红上加红 關雲長流鼻血——紅上加紅  
關雲長が鼻血を出す。もともと赤い上にさらに赤くなる。
- 6 关云长降曹——身在曹营心在汉 關雲長降曹——身在曹營心在漢  
關雲長が曹操に降服する。体は曹操の陣営にあっても心は劉備のもとにある。(關羽は、劉備の二人の妻を守るために、あえて曹操に降服したことがある。)
- 7 关公的赤兔馬——一日千里 關公的赤兔馬——一日千里  
關公の赤兔馬。一日千里。(曹操は、關羽の歡心を買うため、彼に「千里の馬」である赤兔馬を贈った。關羽は、劉備のもとに帰るときに役立つ、と喜んだ)
- 8 关云长说《三国》——光说过五关斩六将、不说走麦城 關雲長說《三國》——光說過五關斬六將、不說走麥城  
關雲長が『三国志』を語る。「五関を過ぎて六将を斬る」だけを語り、「麦城に走る」は語らない。(劉備の消息がわかった關羽は、劉備の二人の妻を伴い、曹操の陣営から逃げ出した。道を急ぐ關羽は、五つの関所を続けざまに強行突破して、曹操の配下の武将を六人、斬り捨てた。關羽の生涯のなかでも、最も栄光に満ちた場面の一つである。一方、麦城への敗走は、生涯で最後の、かつ最大の失敗であった)
- 9 关公斩蔡阳——快得很 關公斬蔡陽——快得很  
關公が蔡陽を斬る。非常に速い。(關羽は、曹操の部将である蔡陽を斬り捨てた)
- 10 曹操败走华容道——不出所料 曹操敗走華容道——不出所料  
曹操が華容道を敗走する。予想どおり。(曹操は赤壁の戦いでボロ負けしたあと、わずかな手勢で落ち延びた。關羽は諸葛孔明の指示で待ち構えていたが、結局、曹操の一行を見逃してやった)
- 11 关公赴会——单刀直入 關公赴會——單刀直入  
關公が会におもむく。単刀直入。(關羽は、潜在的な敵国であった呉の国に、刀一本だけをひっさげて、堂々と乗り込んだ)

12 魯肅宴請關羽——暗藏杀机 魯肅宴請關羽——暗藏殺機  
魯肅が關羽を宴に招く。暗殺の危険がある。(赤壁の戦いのあと、呉の孫権と、劉備のあいだで、荊州の領有をめぐる緊張が高まった。孫権の臣下である魯肅は、關羽を宴会に招いた)

13 关云长刮骨疗疮——若无其事 關雲長刮骨療瘡——若無其事  
關雲長が傷の治療で骨を削られる。何事もないかのよう。(關羽は戦場で右腕の肘に毒矢を受けた。名医の華佗は、骨を削って毒を除いた。常人なら気絶するほどの劇痛だが、關羽は平然と酒を飲みながら碁を打っていた)

14 关羽失荊州——驕兵必敗 關羽失荊州——驕兵必敗  
關羽が荊州を失う。驕った軍隊は必ず負ける。(關羽は、曹操の軍を攻めて快進撃を続けていた。が、側面から孫権の呉軍に攻められ、背後からは守將の糜芳と士仁らに寝返られ、荊州を失った。關羽の油断であった)

15 关云长败走麦城——吃亏全在大意 關雲長敗走麥城——喫虧全在大意  
關雲長が麦城に敗走する。大損は全て油断のせい。

16 东吴杀关羽——嫁祸于人 東吳殺關羽——嫁禍於人  
孫権の呉が關羽を殺す。わざわいを他人に転嫁する。

★吉川英治『三国志』出師の巻、より

華陀(かだ)を伴って、彼は父の帳中へ行った。折しも關羽は馬良をあいてに碁(こ)を囲んでいた。(略)

華陀は瘡(きず)を切開しにかかった。下に置いた銀盆に血は満ち溢れ、華陀の両手もその刀もすべて血漿(けっしょう)にまみれた。その上、臂(ひじ)の骨を鋭利な刃ものでガリガリ削るのであった。關羽は依然として碁盤から眼を離さなかったが、まわりにいた關平や侍臣はみな真つ蒼になってしまい、中には座に耐えず面をそむけて立って行った者すらある。

ようやく終ると、酒をもって洗い、糸をもって瘡口を縫う。華陀の額にもあぶら汗が浮いていた。

手術をおえて退がると、華陀はあらためて、次の日、關羽の容体を見舞いに来た。

「將軍。昨夜は如何でした」

「いや、ゆうべは熟睡した。今朝さめてみれば、痛みも忘れておる。御身は実に天下の名医だ」

「いや、てまえも随分今日まで、多くの患者に接しましたが、まだ將軍のような病人には出会ったことはありません。あなたは実に天下の名患者でいらっしゃる」

「ははは。名医と名患者か。それでは病根も陥落せずにおられまい。予後の養生はいかにしたらよいか」

「怒らないことですな。怒気(どき)を発するのは禁物です」

「かたじけない。よく守ろう」

関羽は百金を包んで華陀に贈った。華陀は手にも取らない。

「大医は国を医し、仁医は人を医す。てまえには国を医するほどの神異もないので、せめて義人のお体でも癒してあげたいと、遙々これへ来たものです。金儲けに来たわけではありません」

飄然とまた小舟に乗って、江上へ去ってしまった。

(加藤注：関羽の治療のくだりは、周瑜の矢傷の治療のくだりと対照的に描かれている)

#### ★【呉下の阿蒙にあらず】十八史略

権将呂蒙、初不学。権勸蒙讀書。魯粛後与蒙論議。大驚曰、卿非復呉下阿蒙。蒙曰、士別參日、即当刮目相待。

権の将呂蒙(りよもう)、初め学ばず。権、蒙に勧めて書を読ましむ。魯粛、後に蒙と論議す。大いに驚きて曰く「卿は復(ま)た呉下の阿蒙に非ず」と。蒙曰く「士別れて参日ならば、即ち当(まさ)に刮目して相待つべし」と。

#### ★【関羽の死】十八史略

漢中將関羽、自江陵出、攻樊城取襄陽。自許以南、往往遥応羽。威震華夏。曹操至議徙許都以避其鋒。司馬懿曰、備権外親内疎。関羽得志、権必不願也。可遣人勸権躡其後。許割江南以封権。操從之。時魯粛已死、呂蒙代之。亦勸権亦凶羽。操師救樊。権將陸遜、又襲羽後。羽狼狽走還。権軍獲羽斬之。遂定荊州。

漢中の將関・羽、江陵より出でて、樊城(はんじょう)を攻めて襄陽(じょうよう)を取る。許(きよ)より以南、往々遥かに羽に応ず。威、華夏に震(ふる)ふ。曹操、許の都を徙(うつ)して以て其の鋒を避けん(え)と議するに至る。司馬懿(しばい)曰く「備と権とは外、親にして、内、疎なり。関羽、志を得(え)ば、権、必ず願はざるなり。人をして権に勧めて其の後ろを躡(ふ)ましむべし。江南を割きて以て権を封ぜんことを許せ」と。操、之に従ふ。時に魯粛、已に死し、呂蒙、之に代わる。亦た権に勧めて羽を凶(はか)らしむ。操の師、樊を救う。権の将・陸遜、又、羽が後ろを襲ふ。羽、狼狽して走り還る。権の軍、羽を獲(え)て之を斬る。遂に荊州を定む。

「我がひげをふんまえ関羽度々のめり」柳多留122篇

★219年の樊城の戦い。関羽の猛進撃に対抗するため、魏と呉が連合。関羽は、呉の呂蒙に討たれる。同年末、呂蒙は病死。呉から送られてきた関羽の首を見た魏の曹操も、翌220年3月に病死。関羽の「たたり」は、後世、関羽が道教の神として神格化される一因となった。